

みだい

発行日 令和2年1月
 発行所 社会福祉法人 山梨県手をつなぐ親の会
みだい寮
 山梨県韮崎市旭町上條南割3561-1
 TEL 055-285-4292 Fax 055-285-4293
<http://y-tewotsunagu.or.jp/midai/>
 発行者 施設長 老 沼 正 敏



本年もよろしくお願ひいたします。

旧年中は大変お世話になりました。本年もよろしくお願ひいたします。
 みだい寮施設長 老沼 正敏

「左利きの卒業式祝辞」という文章があります。随分前に話題になり、その内容に世界中から賞賛と感涙が寄せられたことを記憶していましたが、私がこの文章を読んだのはつい最近です。ミルズ・カレッジというアメリカ屈指の名門女子大学の卒業式（1983年）で、小説家のアーシュラ・クローバー・ルーグウィンが送った祝辞です。「・・・いわゆる人間の制度化された競争、侵略、暴力、権威、および権力の世界」に、自立した女性としてどう生きるのが問いかけるものです。ルーグウィンの作品をみなさんはきつとご存知です。（アニメ映画・ゲド戦記の原作者です。アニメ作品は原作本の深みを伝えるには不十分です。興味をもたれた方は、『ゲド戦記』（清水真砂子訳・岩波書店・全五巻）をお読みになることをお勧めいたします。

卒業祝辞の「左利き」とはマイノリティを象徴する言葉です。『ゲド戦記』の登場人物にも共通します。そして、人間の可能性をその存在の中に求めるのです。紙面の都合で、ほんの一部しか紹介できませんが・・・

「私はみなさんにご成功を、とは申しません。・・・なぜなら人間である以上、失敗に直面することになるからです。みなさんは失望、不正、裏切り、そして取り返しのつかない損失を体験することでしょう。自分は強いと思っていたのに実は弱いのだと・・・所有することを目指していたのに、所有されてしまった自分に気づくことでしょう。暗闇にたったひとり怯えている自分を見出すことでしょう。私が・・・すべての人々に望むことは、そこ、暗闇で、生きていくことができますように、ということなのです。成功という私たちの合理的な文化が、・・・否定しているそんな土地で生きていくことを願っています。」「自分自身の主人として生きることです。」「・・・暗闇こそがあなたの国・・・私たちのルーツは暗闇の中にあります。大地が私たちの国なのです。どうして私たちは祝福を求めて天を仰いだのでしょうか——周囲や足元を見るのではなく？・・・希望はそこに横たわっています。・・・私たちが見下ろしてきた地面の中にあるのです。上からではなく下から、目をくらませる明かりの中ではなく栄養物を与えてくれる闇の中で、人間は人間の魂を育むのです。」「（「左利きの卒業式祝辞」より抜粋）

この文章を読み、『ゲド戦記』を読み返すと、その内容がさらに深まりました。物語の最後で、アースシー（『ゲド戦記』の主要な世界）の人びとを救う、『テルー』は虐待された障害者でした。彼女が、人びとに『世の光』をもたらすのです。

今年も愚直に、みだい寮の仲間たちと、共に歩みます。

新年によせて



家族会 会長 堀内 澄子

皆様、あけましておめでとございます。令和二年の幕開けです。昨年大きな台風が多く発生し、全国各地で被害がありました。今もなお大変な苦勞をされている方々がいらっしゃいます。また、子どもを含めて様々な事件があり、心が痛みました。

今年はどうかな一年になるのでしょうか。どうか平穩で良い年になりますようにと祈ります。

みだい寮にあっては、職員の方々が日夜利用者の支援をして下さり、本当にありがとうございます。様々な催しや活動を取り入れ、利用者一人ひとりに合った日常生活ができるよう工夫して支援計画を立てて下さっていることに感謝しております。利用者の高齢化や障害の重度化の中、職員の方々の仕事は多岐に渡り大変難しいことと思えますが、これからも利用者が毎日困り事などなく安全に暮らしていけるよう、ご支援をお願いします。家族会の行事等は少なくなってきたのが現状です。しかし、会が開かれる時は積極的に参加して頂き、ご自身のお子様や兄弟はもとより、他の利用者たちの様子をご覧になる中で、ご意見を伺えるとありがたく存じます。

私たち養護者も年を重ね、体の不具合も出てきておりますが、気持ちは若く前向きに生活していきましよう。今年も宜しくお願い致します。

〈新任・退任職員挨拶〉

[新任]



昨年10月よりみだい寮の職員として新たに仲間入りしました、小池佑治です。日々の生活はもちろん、イベント時なども利用されている方と楽しく、安全に過ごせるようにしたいと思っています。よろしくお願ひします。

支援1課 小池 佑治

[退任]



この度、11月末をもちまして退職致しました。一人ひとりに寄り添った支援とは何か、日々勉強の毎日でしたが、利用者さんの笑顔にいつも励まされてきました。

今まで、本当にありがとうございました。

支援1課 守屋 奈々美

「スタッフみんな、子どもたち達と関わる時間が大好きです！」

放課後デイみだい 児童発達支援管理責任者 山村 友美



平賀 今日(けふ)は11月30日、「去年原稿を書いて、あれから1年以上が経ったんだなあ。早いなあ。」と思いな

千野 つなぐ育成会の全国大会「育つ・学ぶ」(児童)をテーマとした分科会へ参加してきました。ご家族の参加者が多く、ディスカッションでは学校の選択や支援学級と交流学級、事業所への疑問や悩み等、生の声を聞いて胸が熱くなり、学校や計画相談員との連携の必要性を改めて感じました。現在、「放課後

浅井 デイみだい」は18名の方に契約をしていただいています。保護者の方とは送迎時やモニタリングの際に計画相談員、学校の先生たちと顔を合わせる中で、日々の様子や学習・運動機能・コミュニケーション等、様々な面で成長した事や課題についての話をしています。その中で「わが子の障害の受容」と「障害のあるわが子の受容」に悩んでいるご家族も多く、スタッフ一同経験を積みながらその不安や子どもたち一人ひとりの発達成長を、保護者の皆様と一緒に受け止めていきたいと思っています。

山村 今日(けふ)はわかば支援学校の学芸会でした。練習期間は情緒が不安定になる子も多い中、同級生と力を合わせる姿に毎年大きな成長が見られます。私自身、勤続年数が増える毎に受け取る想いも変わり、特に、高等部3年生の集大成の発表には目に涙が浮かびます。この様な想いをご家族と共感する時間も今後

も大切にしていきたいです。みだいでは学校と異なり、小学生から高等部までの児童が同じ空間で過ごしていますが、同級生同士の仲も大切にしながら、高学年が低学年の面倒を見る等、縦割りも良い関係性を築く事ができています。そこから思考や判断する力、表現する力を付けながら自己選択・自己決定ができる機会へ繋げたいです。「あれを避ければ良かった」ではなく、「こっちも良いな…迷ったけどこっちを選んで良かった!」と思えるような支援を目指します。

ご家族や関係機関の皆様、これから繋がる関係者の方々、「放課後デイみだい」をよろしくお願ひ致します。

入職して数カ月…今、感じていること

支援一課 渡邊 健太

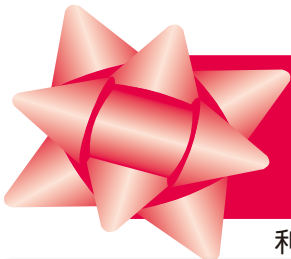


私は昨年の四月に入職し、早いものでもうすぐ一年が経とうとしています。自分でも驚きつつ、一方でとても充実した日々を利用者さんと共に過ごせていると感じるのも事実です。その中で、印象に残っているエピソードを皆さんにお伝えしたいと思います。

私が四月から担当しているMさんについてです。Mさんは日頃から職員の見守りと声掛けで洗濯をしています。洗剤を入れて洗濯機をかけるところまでは見守りで取り組めますが、洗濯物を干すこと・畳んで仕舞うことは適宜声掛けが必要です。中でも仕舞うことについては、衣装棚のどこに何を入れれば良いのか分からず、ご自身でも困り果てている様子でした。

そこで、場所ごとに衣類の写真および、「とれーなー」「ずぼん」などそれぞれを平仮名で示したシールを貼りつけ、仕舞う箇所を分かりやすく示しました。

しばらくの間声掛けをしながら取り組んできたので、ある日、見守りのみで行ってもらおうと試みました。なかなか写真や文字の通りに仕舞うことができずにいたのですが、この日はどこに入れたら良いのか少し悩む様子がありました。考えた末に、トレーナーをその通りの場所で仕舞うことができました。思わず、「すごい!」と声を掛けた時に嬉しそうに笑っていたMさんの笑顔を見て、私もまた嬉しくなりました。こういった一つひとつの喜びを共に感じられるよう、これからも学び続けていきたいと感じているところです。



7～12月 行事ハイライト

利用者旅行



海の生き物をたくさん見たよ。



ディズニーランドにて…



8月 開所記念式典



9月 みだいくらぶ・ゆかいな仲間たち
今年は、よっちゃばれ広場で発表でした。



11月 秋レク

夫婦ユニット・夢浪漫のコンサートがありました。



8月 納涼祭



12月
クリスマス会



12月
餅つき

【令和2年 1～6月の行事予定】

- | | |
|---------------------|--|
| 1月 養護者互例会
利用者新年会 | 4月 お花見 |
| 2月 節分 | 5月 障害者スポーツ大会
陸上・フライングディスク・
ボウリング |
| 3月 利用者お楽しみ会 | 6月 支援協会交流スポーツ
大会 |

【令和元年 7～12月までの苦情解決】

社会福祉法人 山梨県手をつなぐ親の会「苦情解決の仕組み」を利用してのみだい寮における苦情の申し出は0件でした。

みだい第64号 編集後記

昨年5月、元号は平成から令和へと変わりました。ひとつの時代が一息つき、新たな時代が駆け出ししていくように感じます。この数ヶ月、国の新たな施策が打ち出され、外交もこれまでと違った潮目を見せています。私たちを取り巻く環境・制度にも急速な変化があり、時にやさしくない場面があるかも知れませんが、それでもこれに応じて学びと経験を積み重ね、利用者の皆さんの思いを少しずつでも形にできるよう努めていく所存です。

令和も2年を迎えました。本年もよろしくお願い申し上げます。

編集後記 望月・坂本